

原発いらん！
山口ネットワーク
2022年11月の報告
経産省が勝手に決めるのは、原子力政策。
オ414号

次の集まり

2022年12月11日(日) 13時30分
12月の通信は休みます。次々回は、
2023年1月8日(日) 13時30分
会場はどっちも
周南市役所 シビック文化交流室6

11月28日、山口県知事、またもや中電に埋立を免許延長を許可。

山口県は上関原発について福島事故の前と後で原発に対する態度が全く変わっていない。
「国のエネルギー政策に従い、地域の政策選択を尊重する」と。同じ事ばかりを40年間もくり返して来たのだ。
村岡山口県知事は御用知事になり下つたのか。

私たちが県民は祝島の漁民の40年間の長く苦しい闘いによって得たものも少くも残っているのだ。
今も原発のない県になれること、あの美しく豊かな海を失っていないことを祝島の皆さんにどれだけ感謝しても足りないと思うのに。

2019年10月30日の県への申し入れで、熊本一現民から「共同地の取得に伴う補償基準要綱」は利害関係者には必ず補償しなければいけないと定め、このこと、従って埋立工事も、そこに権利のある祝島の漁民に補償しなければ憲法違反になると指摘された時、県の担当者、電気事業もこの法律の対象になることすら知らず黙ってんぞしまったのだ。

それなのに県にとっては新しい知見が、今回の二度にあたる祝島の漁民や県民からの申し入れには全く反映されていない。同じことを専門してもキョトンとしている状況だった。
この全く知らないこととして扱われたい県政には

代表者 小中進
〒742-1513 山口県熊毛郡田布施町麻郷2208
Tel.Fax. 0820-55-6291
振込口座(年会費2000円)
(郵)01590-5-27469
口座名「原発いらん!山口ネットワ-」
複製・印刷・発送
周防灘の自然を守る会
三浦翠外

中電が祝島漁民の会と訴えた裁判オ1日
2022.12.22(木)
14時~
山口地裁若口支部

絶望させられる。

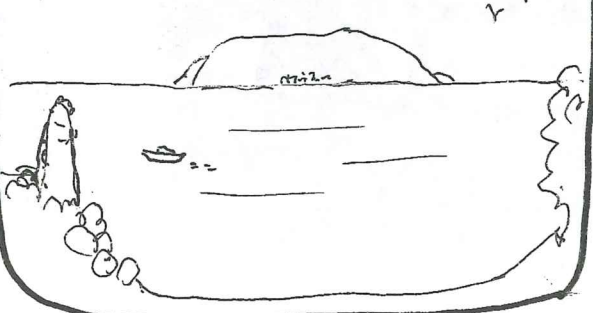
一方で今回県は、県民連らく会に同感する人達が同行して県庁前広場で集会を待とうとしたら、それを禁止すると言いいもし集会をしたら、今後県民連らく会への申し入れにはいっさい応じないと圧力をかけて来た。
県庁の建物もたれし崩壊も知事や県庁に勤める人だけのものでは、ありません。

祝島漁民の会のブログより ↓P③
「上関町長、町議補欠選挙について、これからの活動」
「わが町の風を感じる便りです。」

2022.11月15日、5団体による県への申し入れ。
5団体とは、上関原発を建てるべきでない祝島の漁民の会、
「同上関町民の会」「上関の自然を守る会」「原水禁」「原発いらん・山口ネットワーク」。

「祝島は埋立に同意せず、補償金も受取らないのに、なぜ県は中電に埋立を許可できるのか」
「漁業権は漁師個人個人の権利であるが、県が言うように県漁協が勝手に埋立に同意しても何の意味もない。」
これに対して県は、今日は、漁業権に関する部署のもの、出席してこないの。後日欠きで回答すると。

おばんじり、水筒、ぼうし、手袋も忘れなさい。
★5回
田の浦ビニック & ビーチクリーン
2023.2.1(水) 11:00~
雨天の場合は2月8日に。
幅広く先原真紀 090-5309-1032
河本文江 090-8063-4785
お天候対策をしっかりと。風があると浜は寒いぞ。



2022 11月16日。同じく5団体による中電本社への申し入れ。

申し入れ当日夜、小中進さんが、次のような経過報告をブログにのせました。

すると17日には中電から削除を求めてきました。

小中さんのブログより

ト

この中電のやり方を見ると各マスコミに対しもかなりのチェックと圧力をかけられているに気がしないと回答した。(M)



上関原発止めようというネットの活動家は9時30分より中電前で準備作業中。

2022/11/23 13:24

小中進 (17) ながさき211 ブログ

中電の担当者より1階ロビーで大勢の中でのことで何のことも聞き取れませんでした。ブログは、私の開設したもので他人による介入については影響は受けません。法的には、個人の意思・信条の自由は尊重され法律で守られています。しかし、この度の中国電力の行為は一般社会では通らない事ではありますが大局的な見地から、経過報告より以下7行を一旦、削除することになりました。皆様には、多くのご意見を賜り心より感謝申し上げます。

10月25日、中国電力は上関原発予定地、田ノ浦海岸の公有水面埋立て免許の延長申請を山口県に行いました。祝島漁民は今も中電の漁業補償金を受領していないし、埋立てやボーリング調査に同意もしていません。にもかかわらず中電は、祝島漁民の財産権である漁業権を無視し、漁業権のない山口県漁協の同意を得たとしてごまかし、祝島漁民に対して海上ボーリング調査を妨害しないように求める民事訴訟を起こすなど本末顛倒です。祝島漁民の漁場を妨害しているのは中国電力です。

経過報告

マネージャー吉田公武氏は、2050年問題による気候変動・脱炭素化を受けて原発に対する重要性が高まる中で今後も上関原発計画については、理解を得ながら取り組んでいくと回答した。

- ① 上関町の対立について一理解を求めながら取り組む意向を示す。
- ② 上関町内の中電職員は40名です。原発道路の費用は答えられない。
- ③ 祝島漁民の漁業権について一利害関係人の同意・補償が必要については答弁なし沈黙。
※最も大切なことは、漁業権を持っている祝島漁民の権利を尊重することです。



コメント・写真削除の経過報告

☆昨日17日(木)午後、中国電力の担当者より連絡がありました。2枚目の中国電力社員8名が写っている写真の削除ならびにその下の交渉経過のご報告についての記載部分を削除してほしいとの連絡が入りました。

対応一写真削除につきましては、肖像権の問題もありますので削除しましたが、経過報告の削除につきましては、皆様のご意見もお伺い最終的に決めたいと思っています。

○11月19日(土)関係団体の会合で中国電力の「記載の削除」の件を報告し協議しました。協議の結果、記載部分の削除はする必要はないとの結論に達しました。多くの皆様のご意見ありがとうございました。

○11月22日(火)中国電力の交渉担当者より再度連絡がありました。

「申し入れの交渉段階で4項目について担当者と話しているので経過報告の削除をしてほしいと連絡がありました」

申し入れの条件4項目とは

- ① SNS・ブログ等には配信しないで下さい
- ② 動画撮影の配信はしないで下さい
- ③ プラカード等の持ち込みを禁止しています
- ④ 申し入れ時間は、1時間です

「以上のことは、5年前くらいから他の団体でも行っているとしています」

今回の申し入れ4団体の交渉段階でも4項目の了解のもとで申し入れを受けているので削除して下さい、削除が出来ないようでしたら4団体との交渉は今後できなくなります。との連絡でした。」尚、削除についての法的な根拠はありませんが約束事です。と中電の担当者は言っています。しかし、4項目について説明をお聞きしたのは今日が初めてです。事前に担当者間だけの話してました。申し入れ当日は、

2022 11/24、上関原発を建てさせない山口県民連絡会の県への申し入れ。申し入れ書は次のページにあります。

P①にも書き添えました。県は同調する県民が集まることは認められないと条件をつけた。内部では異論もあったが、今中電側から申し入れも仕方ないと、条件を受け入れた。それぞれも働きかけた人が10数名ロビーに集って待機。県の回答を報告した。

申し入れは、宇部市民の会、の浜野勝さんが、高工房の部の三浦理事に申し入れ書を渡すところからじまじまった。県の回答

- ① について。公有水面埋立法に基きまして着査を行って。
- ② について。県条例に従って適切に判断する。
- ③ 自然については事業者である中電が適切な保全をはかるよう要請する。

④ 国におりて福島の新設の敷地を踏まえて新たな規制基準をたつて安全を確保する努力を要している。

県として「おまびり事業者の責任におりて安全を確保。埋立法にもとづいて着査する」と言うのが、埋立法が済んだ項には、利害関係者の同意と補償をしなければならぬとある。

利害関係人である祝島の人は、補償金を全く受取っていない。それなのに、埋立法を許可したりボーリング調査を許可したりするのは、県のやる事は間違っている。

⑤ 事業者が県漁協の同意をとっているのをご許可した。

県漁協はあの海域に何の権利も持っていない。他の漁協はすでに補償金を受取って漁業権を放棄している。あの海域に漁業権があるのは祝島だけだ。

上関町長選、町議補欠選挙についてとこれからの活動

2022年10月23日に上関町長選挙と町議補欠選挙が行われました。

岸田総理の原発推進の動きと運動しての、町の推進団体、中国電力の動きから、島民の会では原発反対のために立候補確立の方向で検討していました。

10月9日に島民の会の推薦を受け、木村力（町長候補）、堀田圭介（町議候補）両氏が立候補することに決まりました。

若者を交えての選挙作戦会議は、意見が活発に行われ、なかなか爽りの多いものでした。

町長選では原発反対を前面に押し出し、町議選では若者の選挙への関心度アップを狙って政策をアピールしました。

結果は町長選、町議選とも反対票3割弱ということでしたが、島民の会では落胆は無く、これから頑張ろうという気持ちが強まっています。

11年ぶりの町長選ということで、報道の関心も高く、原発反対の訴えがかなり広く伝わったことは大きな成果でした。全国から応援のメッセージが届きました。あらためて原発問題は一町だけの問題ではないと認識し、温かい応援に深く感謝します。

選挙活動での演説では、なかなか政策などを聞いてもらえないという印象でしたが、訴えることに努力する姿勢は必要であり、浸透していけば効力を発揮することが期待できると思います。訴えを行動とともに続ける必要があると思います。

立候補した二人とも原発に頼らない自立した明るい町作りを訴えたわけですが、選挙後に早速観光地整備活動として、平さんの樹田と石垣の草刈りを行いました。上関町には素晴らしい観光スポットが散りばめられています。やれることからやり始め、続けていくことが必要であるとの考えからの活動です。

一方で、原発建設計画に対する活動です。当面田ノ浦が最重要であり、関連しているいろいろな中国電力側からの動きがあります。県への埋立免許の延長申請、3年前からのボーリング調査、島民の会への提訴などです。

島民の会の田ノ浦での活動の目的は、「放射能の巣である原発建設」の予定地田ノ浦の工事を進めない事です。まず、その芽であるボーリング調査を掴むことが大切だと思って活動しています。

島民の会としての活動の姿勢は、上関原発を建てさせないために、運営委員会と協議をし、行動することです。行動を伴わない批判だけでは弱される危機感を持っています。

島民の会では、白紙撤回に持ち込める粘り強い活動を続けなければならないと思っています。

福島の大惨事の後、祝島を訪れ島民の会の活動を応援してくれた農家の方がいました。福島の大惨事は忘れてはならないと思います。

今までのご支援に感謝するとともに、これからも応援をよろしくお願いします。



11/24、県民連らく会の県への申し入れ書が、

山口県知事 村岡嗣政 様

2022年11月24日

上関原発を建てさせない山口県民連絡会

共同代表 清水 敏保

共同代表 内山 新吾

事務局長 原 康司

上関原子力発電所建設計画に係る公有水面埋立免許の不許可を求める申し入れ

平素から県政発展のために尽力されておられることに敬意を表します。

今年10月25日、中国電力は山口県に対し「上関原発建設予定地の公有水面埋立免許延長申請」を出しました。これは、2019年7月に村岡県知事が中国電力に対して許可した同延長申請が、2023年1月6日で期限切れとなることを見越しての申請です。

今回、中国電力は埋め立て工事のための免許の期限を2027年6月6日まで、4年5ヶ月の延長を県に申請しました。さらに11月9日には、村岡県知事が中国電力に対し、補足説明を求めていることが明らかになりました。

山口県は、2008年10月に、反対する県民の声を押し切って中国電力に対し埋め立て許可を出しました。2011年の東京電力福島第一原発事故以降、原発反対の世論が高まったにもかかわらず、村岡県知事は、これまで2016年、2019年の2度、埋め立て免許の延長を許可しています。すでに当初の計画から40年経ち、地球環境を守って持続可能な社会をめざそうという世論・志向はいま、確実に高まり、変化しています。わたしたちは、上関原発計画は、県民の安心・安全を守る村岡知事の立場とは相反するものだと考えます。

村岡県知事は、「上関原発計画に係る公有水面埋立免許」の延長を許可せず、上関原発計画そのものが白紙撤回されるよう動いてください。

つきましては、下記事項を申し入れます。回答につきましては、申し入れ当日の回答に加えて、書面でも行われることを要請いたします。

申し入れ事項

1. 公有水面埋立免許延長申請を不許可にしてください。
2. ボーリング調査での「一般海域の占用許可」申請が出されても不許可にしてください。
3. 県民の宝であり、「奇跡の海」といわれる上関の自然と瀬戸内海の貴重な自然環境を守ってください。
4. 県知事は、現在の原発をめぐる情勢の変化をどのように捉えているか、説明してください。
5. 県知事は、中国電力が2021年10月にボーリング調査を断念した理由をどう把握されているか、説明してください。

連絡先 〒747-0035 防府市栄町 1-2-1 日本基督教団防府教会気付 上関原発を建てさせない山口県民連絡会
電話 080-6331-0960 (事務局次長 安藤)

その祝島の人が同意しなさいのたなせ許可を出すのか。
何度言っても県は「県漁協の同意がある」とくり返すだけ。
村岡県知事へ責任が問われない等の言い訳ばかりだ。

イベント情報 オンラインも

○ 12月3日(土)

OL 拍車かかる戦後版国家
改造計画のゆくへ ~ 軍事
国家日本の台頭とリベラリ
ズムの後退 ~
瀬瀬厚さん(明治大学国際
武器移転史研究所客員研究
員)

<https://kanagawapeaceaction.livedoor.blog/2022-12-3-Kouketsu.pdf>

○ 12月4日(日)~
18日(日)

各地で

● 「原発政策の大転換を許
すな! 全国統一行動」

○ 12月8日(木)
19:00~22:00

OL ● 大島堅一さん(原子力
市民委員会座長)

申込み
<https://forms.gle/GtosSBdN61Jdmy8g8>

○ 12月11日(日) 13:00~
原発いっしょ! 山口ネットワーク例会

○ 12月14日(水) 11:30~ 県庁前
朝鮮学校の補助金復活を!
あわりこみ。

○ 12月17日(土) 15:00~17:00
熊本-規さん学習会
OL、いのち探うべから

○ 12月22日(木) 14:00~
中電の祝島を許すに裁判第1回
岩国支部

○ 2023.3.18 山口大集会 ビッグシールド
10:00~

山口市から参加された美澄さんご夫妻の感想文です。

田ノ浦海岸清掃に参加 美澄博雅・信子

地図を見ながら上関のことを考えていましたが、現場に行かなければいけないなと思い、
原発いらん山口ネットワークの方から助けていただきました。

上関町の入り口近くには、上関大橋の図と”活力ある豊かな町を原発で”の看板がある。
福島県双葉町の公募看板”原子力郷土の発展 豊かな未来”、”原子力明るい未来のエネルギ-”
は1988年に灯ったが、今は撤去され東日本大震災・原子力災害伝承館に保存されて
いる。この展示の考え方はいけないことだと福島の一とびとは気付いたが、山口県や上
関町ではいまだ有効とみられる。

誰でも山野、川、海で遊び、耕し、採取していた。自然が命、人間を育ててきた。瀬戸内
海の環境を必要とするのは、希少生物だけでなくヒトも必要としている。そのヒトが特別
稀少のヒトと言うわけではない。多様な糧になる自然の喪失をおそれる人たちは、自然破
壊の動きを引き留めようと、中電の囲い地の険しい山道を通って、田ノ浦の海にやって
きた。瀬戸内に面した広い範囲の人びとは、企業以外は利害関係者とは定義されておらず、
人々が除外された状態、企業の利益のみが国策となってきた。人々は直接に環境から
利益を得ていると考えたい。

国のセリフでは、”日本を代表するすぐれた自然の風景地を保護するために開発等の人為
を制限するとともに、風景の観賞などの自然に親しむ利用がし易いように、必要な情報の
提供や利用施設を整備しているところであり、環境大臣が自然公園法に基づき指定し、国
が直接管理する自然公園です。”と言うが、実は環境保全を実行しない。

上関町長島田ノ浦への険しい道を通った住民の静かな、海辺の清掃活動は自然の環境が
自分にも必要なもの、生きる糧であることを示しているように感じられる。海辺には長年
波に洗われ磨かれて角の取れた丸い石粒や砂が浜になっている。表面には汚れがついてい
ないのは石や砂を波で動かして研磨しているから。研磨した微細な汚れや粘土質粒子は波
が持ち去る。水面を漂ったごみや浮遊物、は波の到達した最高点に置き去りにされ蓄
積されている。

この浜や海が県と中国電力の資本力で人々から奪われようとしている。上関町長島の半
分近くの土地は既に中電の所有となった。中電の囲い込み点まで町道に入ってくると、鉄
製の単管が打ち込まれ囲われている。町道の分かれ道の南ルートには入れないが舗装され
中電専用になっている。北側の道は両側を柵に囲まれた険しいけもの道の様である。

中電が獲得している土地と海面埋め立て図の看板 ”田ノ浦海岸は当社が埋め立て免許を
取得している工事施行区域であり、危険ですので立ち入りはお止めください。工事施行区
域内の安全確保にご協力ください。なお、現場管理のため監視カメラ等による警備を行っ
ています。”、”社有地につき関係者以外の無断立ち入りを禁ず”、”中国電力所有
地”
等がわたしたちを迎えた。

原発の許可が下りていなく、今は工事が施行されていないので、町道を通って、田ノ浦の
浜に出るのは問題ないはずだが、色々と中電の看板10枚以上が道に面して設置されてい
る。基本的には来るなと言う。他方で、”Welcome to 田ノ浦 海岸まであと少しその
ままお進みください この海岸は公共用物です だれでも自由に使用できます”
、”Welcome to 田ノ浦 海岸まであと少し 左側をずっと下ってニャン ※ 昭
和15年の最高裁判所に判決があるように、埋め立て工事が終了して中電の土地になるまで
この海岸は公共用物です。”とあり、屋も暗く木々に囲まれた険しい道を通る力を得
る。

この地域の海岸や島々を見ながら自然の生き物とヒトにとっての環境について、また手広
く島や道路を手配した中電と神社庁、地方行政の暗躍を考えました。

そのかわり、伊方原発裁判の日と日程をずらしたのだ
そのグループの人達が参加。
広島からいつものように渡田さんが駆けつけてつどいのおまか
ラテントを準備、みんなが設置。
広島若国、平生、光、下松、周南、山口から10人の参加。
集めたゴミは
450x5
300x7
不燃物
300x1
でした。

○この日は秋らしいいいお天気に恵まれた。暑くもなく寒く
もなく快適。祝島の島の壁が光って見える。
原真紀さんの友人の若いお母さん達は、今日何 保護
者会というところ子供たちは来れなかった。

○ビーチクリーンが終るから、数人でつどいの表の向い側の林の
中に、昨年知オでなくなった大工の原田芳郎さんが、刈前
の中電との激しい攻防の最中に建て下った監視小屋
を見に行った。
小屋は荒れ果てたままと建てた。みんなが、誠実
でやさしくて、強い闘志を持ち、多くのことに才能豊かな
だった原田さんをしのびました。
○山口市から参加された美澄さんご夫妻に感想文を書き
いただきました。
美澄さんご夫妻は放射線の専門医で、フクシマの事故後、ご夫妻
で度々福島を訪れ、レントゲンの感光板に、植物や土を
のせて感光させる方法で、放射能汚染を可視化し見せ
て下さっています。信子さんは大津島 土質について海
に対する強い関心を感じました。
←

● 列回の報告(11月13日)

● 参加地域 東広島市、光、下松、田布施、周南、宇部

① 山中代表より

久しぶりの雨で畑の野菜も喜んでいきます。上関の選挙も終わりました。組織や利空口で動く選挙戦でしたが、本村候補は自然を活かした明のる町づくりを訴えられて、町民の心にしみ入る内容でした。

中電は40年間、熊毛の事務所を数十人の社員を張りつけて、四六時中地域に目を配り、町民との関係を築き上げてきました。中電が居なくなると困るといふ話まで聞きました。

以前より、一軒一軒まわって話し合っていたといかないといけない。意見は、刈刈前からありました。しかし、皆さんそれぞれに仕事がある中、それは無理でした。中電は仕事としてやっているわけだから、そこも仕方ありません。

そんな中、知る近い人が原発反対に投票してくれたことは心強い。

今朝も雨の中

ご立止をされていると、わざわざ車の窓を開けて手を握ってくれる人もいます。多くの方が上関原発のことを心配していることは心強く感じます。

そういう多くの人の気持ちをまとめて内々お話ししよう。上関も、選挙もやっただけから、こういう事実もわかっています。

② 河本文江さんより

10月31日に友人と2人で「つじの場」の掃除をし、浜に下りてみました。浜には流木はあるが、プラゴミは余り目につかない状況。「つじの家」は虫の死骸がいつの間にか重かったけど水を掃って行くとゴミも掃除されました。

「つじ」の時は皆トイレを使うので、今入りに掃除をし、手洗いの水も用意しました。

細越から駐車場までの道は中電さんがきれいに草刈りをすましてくれました。

浜に下りる道の下のコンクリートと走る装束(ドラマー)のあるあたりの道がイノシシに荒らされたところや石の階段に落ちたりしていた。坂道の上の方の木を階段を作ってもらったところも落葉がいつの間にか、まわりやすくなっている。中電の敷地には誰もいなかった。

流木で造った芸術作品もあるそうなので、私たちも何か造って遊んだら面白いかなと思ったりします。

今回の「つじ」の浦で「つじ」の浦は、2月1日、雨の場合は2月8日です。

③ 県議選について

来春の統一地方選挙が明々明にあり、自民と連合が原発推進を明確にして各地に候補者を立てる動きがある。

今夕の県議のうち、原発反対の県議は6人。

原発反対の県議全員の当選をめぐって頑張ります。

⑤

④ 2023年10月6日に期限が来る田の浦の埋立免許について、中電は10月25日に4年5ヶ月間の延長申請を県に出した。

11月4日、村岡知事は中電に補足説明を求めた。18日までに回答するよう求められている。

⑤ 11月15日5団体(上関原発を建てない祝島島民の会、同じく上関町民の会、原水祭、上関の自然を守る会、原発いらい、山口ネットワーク)で県に申し入れをする。許可するな、と言っている。

⑥ 11月16日、4団体で中電本社に4団体で申し入れ。祝島島民の会は中電とは話し合えない。話し合おうと中電は勝手に「ご理解をいただいた」と言っている。

この日は、広島市の「上関」の山口ネットワークの皆さんも中電前まで「しん」の行動をします。(しました)

⑦ 11月24日11時、山口県連絡会(3月集会を県民各地から集めて討議する会)が県に申し入れをする。(しました)この時県庁前に集まろう。県は集まることは許さん

言っているが、「さうですが、わかりました」というわけには
いかない。

⑧ 上野典子さんより。
3.11前と同じように地盤、地質も調べないで、ここに原発
を建てるのが、埋立てているのかについて、福島も、ほ々
んを通じて国に質問状を送った。11/14に回答が来る
予定です。

⑨ 通信の発送作業のこと。
政府の3人には18年間も毎月々々発送作業を担って
いただいて本当に感謝感謝です。
ナンやひだりど、ネットワー、一回の気持でこの感謝の意
をおぼせました。
今後は周南で印刷、発送作業をする事に。

⑩ 「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」
からの署名を同封します。
「医療・介護保険料及び医療費の減免措置」
見直し政府方針撤回と措置継続、国の責任を全うすの
原発事故被害者に「健康手帳」(医療費無料化
等)交付を求めます。 という署名です。

生活基盤を奪い、住居補助も打ち切り、公毛
高い放射線の中で暮らすを得ない人々から
ナント奪い取ろうとする政治は許せない。
さうやって、勝手に福島のも事故は終ったことにな
らぬか。
○署名に協力下さい。

裁判のこと

中電が福島県民の会を訴えた裁判(第1回)
2022年12月22日(木)14時
伊方原発運転差止め裁判(第1回)
2023年1月19日(木)14時

11/17の裁判の報告。
まず最初に中野典子弁護士から伊方原発の地盤に
ついでに昭和48年(1973年)の伊方裁判で、生越忠氏が

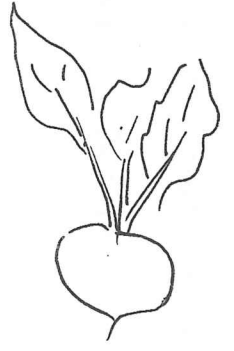
鑑定人となり、伊方原発の地質、地盤は脆弱であり、原発
建設には不適であると証言。
ナラに私たちの裁判でも、小松、早坂氏の調査と同じ結
論が出た。

中央構造線の激しい活動による砕かれた石がすり合
表面が鏡のようにつるつるにはつた石が積不細工のよう折
まわっているだけの地質で、いつくずれもあかしくない。
地震や津波は勿論、平穏なある日に突然くずれ落ちて
もあかしくない地盤である。

伊方原発が大浜一海に滑り落ちる危険性がある。
続いて、中野典子弁護士が火山の危険について論述。
被告は破局的噴火までにはまだ時門があるというが、現在
の科学では火山の噴火は予知できない。
9万年前の阿蘇山の大噴火では山口中まで火砕流が届いて
いる。

四電は佐多岬半島西端部にある阿蘇池のボーリングを
くわいて火山灰はないと言っているが、9万年前の地層はそ
れより深いところにある。なごく四電の証言の嘘が指
摘された。

会計報告



2022年11月の会計報告—原発いらん/山口ネット7-7

9月の報告の残高	228,515
収入 会費とカンパ	24,000
支出	
9月の報告・作製・発送料	25,484
10月の "	27,943
10月例会会場費	1,400
11月 "	1,140
熊本一現さん勉強会費用	11,760
発送グループにお礼のお菓子	6,900
ピーチカーンゴミ袋代	1,000
振込通知料	330
送金手数料	146
	76,103
差引残高	176,412

○会費とカンパの振込とありがとうございました。
○年会費は2000円です。(郵)01590-5-27469
・9月の会計報告の残高に会計簿からの乳みちが
ありました。正しくは上記の通りです。

生命脱核シルクロード、その後

李元栄教授の徒歩巡礼に付き合っ

2017年3月25日、第4回上関原発を建てさせない山口県民集会に参加した時に、本会場外の小会場で、韓国の大学教授が挨拶をしているとのことで聴きに行きました。世界から原発を無くすために世界の宗教指導者に協力を求めて徒歩巡礼をするということでした。私は彼が一人歩いている時に声をかけ、挨拶をして名刺を渡しました。それが機縁となり、彼、李元栄（イ・ウォンニョン）（水原大学教授）の「生命脱核シルクロードの旅」に付き合うことになりました。

同年5月3日にソウル市庁前をソウル市教育監（教育長）等に見送られ、若い人々も一緒に徒步行進している写真がUPされ、釜山までの旅がブログに日記が出始めました。毎日の記録ですので、これは一人での訳は無理なので、ハンダルの出来る人に声をかけて交替で訳して行くようにしました。やがてフェリーで下関に来られて、広島市での出発式に安藤さん、岡村さんと参加しました。そして6月4日、平和公園を祈りを捧げた後にスタート、山口市の原さんもこの時から李教授に同行することになりました。（原さんは東南アジアまで同行）

山口県内各地で歓迎と応援を受けながら同行しての徒歩巡礼が続きました。この流れは福岡県に入って、長崎市まで続きました。各地で温かい応援を受けて李教授は元気に旅を続け6月29日に長崎市の爆心地公園に到着し、ここで祈りを捧げられました。

その後7月2日には台湾に入り、旅はローマ目指して、東南アジアへと続いて行きました。インドを巡り、トルコ、ギリシャ・マケドニア・セルビアまで行った頃、新型コロナのために、旅をいったん休止して帰国し、旅の再開まで韓国内で活動を続け、昨年12月末にヨーロッパ・ルーマニアから再開、2月23日にドイツ・ミュンヘン到着しました。ドイツでは環境市民団体の歓迎を受けています。またこの夏は7月3日にミュンヘンを出発し、高度2千メートルのアルプスの峠越えをして8月23日、猛暑のイタリア、ローマ・バチカンに到着しました。その後、枢機卿に会うように願っていましたが残念ながらかないませんでした。その時のことを李教授は次のように記しています。

ユ・フンシク・ラザロ枢機卿が歓迎

ちょうど8月27日に枢機卿に就任したユ・フンシク・ラザロ枢機卿様と28日の歓迎ミサ後の祝賀宴で挨拶することができました。

現在の法王はお目にかかれませんでした。未来の法王になるかもしれないユ枢機卿様にご挨拶して、短い時間ではありますが、これまで歩んできた事実をお話しましたので、巡礼団の所期の目的はかなったと思います。

私は昨日帰国して、今日、学期の初講義を終えました。

長い歳月の間、巡礼が安全に行われるように祈り、声援して下さったすべての方々に改めて深く感謝申し上げます。

2022年8月31日

イ・ウォンニョン 様

最近の活動

そして最近のブログで次のように記しています。巡礼の旅がますます活動の表舞台に押し出しています。

（前略）

今では皆、国連の限界について知っています。それならどう変えるのか。飛行機が左右の翼で飛ぶように、家庭にも親が子供の世話をするように、すべての布地は縦糸と横糸で編まれているように、国連に対して対等な民衆的エネルギーの連合体が必要です。

補完的でありながら牽制できる存在が必要なのです。つまり双頭馬車が必要なのです。一頭の馬の上にいると落馬の危険性が大きいですが、双頭馬車の車輪は安全な座席を用意してくれます。地球村は双頭馬車で運営されなければなりません。民衆から尊敬される宗教界のリーダーは、その求心点になることができます。

新型コロナウイルス感染症で2年間休んでいる間に原発危険公益情報センター（PRCDN）と韓国脱核エネルギー学会（KSNP）が発足しました。今毎月ウェブマガジンが出ています。この二つの団体は、今後、地球村で本格的な民衆的連合体が発足する時、実務的な仕事を助ける役割を果たすでしょう。来年2月が定年の私は、この二つの団体を力を尽くして助けたいと思います。

これまで歩んできた物語は今『ハンギョレ:オン』と『仏教ドットコム』に生命脱核シルクロードという名前で連載されています。「時速4kmの観光列車」に乗ってゆっくり見るしかなかったのが、そのすべての場が映画フィルムのように一つ一つ浮び上がっています。楽しんでください。

以上の報告がありました。さらに彼のfacebookを覗くと、彼が韓国大統領の妻・金ゴンヒの特別検事制度で起訴を、尹ソギョル大統領の解職を求めるソウルのロウソク大集会の壇上から旅の経験を踏まえて民主化運動参加者を鼓舞する熱弁を振るっているのを見ることが出来ます。世界26か国を徒歩巡礼してきたその経験が演説に込められていることが分かります。Youtubeで見ることができます。

(87) '김건희 특검! 윤석열 퇴진!' 10차 촛불대행진 - 이원영 공동대표 연설 - YouTube

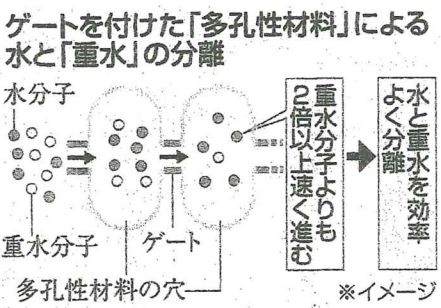
今、私たちは世界の人とネット・オンラインでつながる時代です。韓国の民主化運動や脱核運動ともいっても繋がる時代を生きています。

鉄野保雄

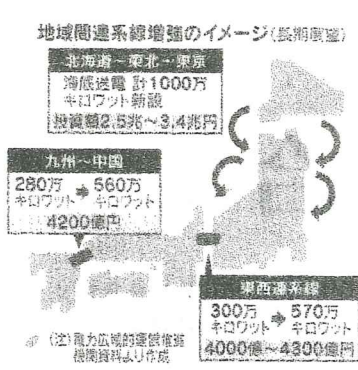
5年前県民大会の時 会場の外で李元栄教授の話と聞いた時は衝撃的だった。「ローマまで歩く…」大陸に住む人はこういう発想ができるのだと、今年8月、ついにローマに到着されました。日々の道程とネットで行き、ハンダルのコメントを訳し続けられた下関の鉄野さんに報告してもらいました。

関連する新聞記

- ・(11/3中口) 原発60年超の運転可能に、規制委厳格審査を強調
- ・(11/5中口) 処理水放出で新基金、2次補正案、50億円計上へ。
- ・(11/7中口) 水位低下へ準備作業。福島1号機、耐震性の向上目指す。
- ・(11/7中口) 温暖化抑制へ対策加速。COP27開幕。エースト・シヤムエルセイフズ。
- ・(11/8中口) 原発運転60年。原則40年維持を、全口20の市民団体が規制委に申し入れ。↓P9
- ・(11/8よみうり) 太陽光パネル廃棄に備え、再資源化体制整備急ぐ。20年代大量ごみ化の恐れ。
- ・(11/8中口) 東電返済。最長64年度。口の利息負担最大238億円。
- ・(11/8日経) 東京都防防潮堤かさ上げ。最大14メートル。温暖化の海面上昇想定。
- ・(11/8日経) 紛争ほどにより住む場所を失った人980万人。気候変動の影響が住む場所を失った人30%増。
- ・(11/8日経) 仏原発の発電料急減。ストや不具合が電力停止。欧州、電力供給網渡り。
- ・(11/8日経) 温暖化「損失対策」隔たりも。被害大きい途上国ほど資金難。先進口に支援要請へ。
- ・(11/9中口) 省電、エアコン2度下げ、2%削減政府。鳥取が初。
- ・(11/10中口) 原発再稼働で隣県に交付金。経産省、5億円。鳥取が初。
- ・(11/10中口) 処理水のトリチウム分離に道。京都大千4.7兆円。鳥取が初。
- ・(11/10日経) 経常黒字、459月58%減。エネ構造転換遅れ映す。原油高が貿易赤字拡大。
- ・(11/11日経) 再エネ移行「安保への投資」EU欧州委員、環境担当
- ・(11/11中口) 福島原発賠償対象拡大。原賠審指針見直し。過酷な避難など。
- ・(11/11中口) 日本に「化石燃料」化石燃料の公的拠出世界一



- ・(11/13日経) 温暖化の次脅威は生物喪失
- ・(11/15中口) 日本製鋼所不正449件。原発関連製品も。
- ・(11/17中口) まきストーブ熱じんわり。地産地消エネに脚光
- ・(11/17中口) 大阪万博、原子力活用方針。
- ・(11/17朝日) 原発10年ごと審査。異論出ず、規制委運転から30年以後。
- ・(11/17日経) 電力不足で太陽光ブーム。経済危機のレバノン。
- ・(11/18朝日) 核のごみ処分場混雑2年。北海道2町村の文獻調査。住民投票決まらず。知事反対一貫。
- ・(11/18日経) 温暖化で災害。補償基金を、COP27、途上国が主張。
- ・(11/19中口) マネーの海外流出、再エネに回す一層の注ぎ。片山善博元鳥取県知事。
- ・(11/19日経) 電力の東西融通拡大。過渡緩和へ送電網増強。経産省検討。再エネ活用にも寄与。投資額、最大約1億円。
- ・(11/19日経) 仏大統領マクロン氏APEC首脳会議のパンフレット。記者会見、日仏「原子力協力」と。
- ・(11/20日経) 「冬の出」温暖化で増加中。暖かい海水がエネルギー源に。
- ・(11/20日経) 電通大と青森市、積雪発電を実証実験。雪と太陽光の温度差を利用。
- ・(11/21中口) COP27開幕。途上国存在感悲願の基金。
- ・(11/21中口) 核燃料再処理工場「完成に総力を」。西村経産相六ヶ所視察。
- ・(11/21日経) 地球無因に「電力確保に難題」。
- ・(11/21日経) 飯舘村、来年GWごろ避難指示解除。復興拠点外も。
- ・(11/21日経) 中古太陽光パネル販売。九紅来年度にも待たず。
- ・(11/22中口) 肉電旧経営陣再び不起訴。大阪地検の方針。
- ・(11/23日経) 再生エネ、初の20%超。欧州、中国には後れ。
- ・(11/25中口) 東北電力大幅値上げ申請。
- ・(11/26中口) 停止除外日最終調整。経産省原発60年超運転可に。
- ・(11/26中口) 周電高換原発の運転延長申請へ、34日連続40年超に。
- ・(11/29中口) 福島原発賠償対象「福島原発事故の指針原賠審見直し」。



これほど日経紙上での構想は何度も見た。まだ何もやらないとはあきれた。

(新聞記事の続きです。)

・地域のニーズ

・(10/29 朝日) 島根原発2号機安全策工事延長。

・(10/29 中口) 中電家庭向け本格値上げ、コスト高騰極うぐ安売供給

・(11/1 中口) 防府のバイオマス混焼発電所、中電の単独運営へ。

・(11/2 中口) ミ陽2号機、営業運転開始。

・(11/8 中口) 島根原発防災訓練 船初使用。

・(11/10 中口) 上関原発埋立免許、中電の延長申請県が「補正」要求。

・(11/11 日経) 島根原発再稼働時、島取も交付金最最大り億円。

・(11/11 中口) 鳥取県知事、「解決せず」

・(11/12 中口) スミの電力予備率56% 中電NW余力あるが節電も。

・(11/15 中口) 人員・訓練厳格な確認も、運転員4割原発経験なし。島根県知事。

・(11/16 中口) 島根原発に大害備え訓練

・(11/16 中口) 山を駆け戻して産業を生む、バイオ発電会社社長、ス保睡夫さん。

・(11/17 中口) 上関原発中止で中電に申し入れ、山口の4団体

・(11/25 中口) 山口市が地域新電力、地産地消へ、民間と23年度新会社、太陽光・廃棄物発電を利用。

・(11/26 中口) 野党の候補者確立「難しい」々々補選で市民連合会。

・(11/25 中口) 「免許の延長不許可を」上関原発住民団体、県に申し入れ。↓ P9

・(11/26 中口) 中電など課徴金命令へ、電力カルテル過去最取高数百億円か。

・(11/26 中口) 中電家庭向け割引上げ、来季4月より。

・(11/29 中口) 上関原発埋立の立地免許 山口県許可、3度目延長、住民賛否。

・(11/30 朝日) 11月長瀬長穂地区で計画している太陽光発電事業の環境影響評価方法書について。

・環境保全の見地から意見のある人の意見書を受け付け、11月1日~12月16日、環境政策課の長穂支所窓口。

11/25 免許の延長不許可を

上関原発 住民団体、県に申し入れ

中国電力が上関町で計画する上関原発の建設に向け、海の埋め立て免許の延長を県に申請したことを受け、「上関原発を建てさせない県民連絡会」は24日、許可をしないよう県に申し入れた。県側は「現在審査中で、公有水面埋立法に従って適正に対処する」と応えた。

同会のメンバーたち約20人が県庁を訪れ、役員の浜野勝さん(82)が商工労働部の三浦健治理事に申し入れ書を手渡した。メンバーた



三浦理事(手前右)に申し入れ書を手渡す浜野さん

ちは「祝島の漁師は補償金を受け取っておらず、埋め立ての同意もしていない。漁業権を無視している」と訴えた。県側は「当初免許時に、工事区域内の漁業権者として県漁協の同意を得ている」と説明した。メンバーたちは「法律を都合のいいように解釈している」と主張した。浜野さんは「中電は何度も免許の延長を申請している。それを許可するのは厳正な審査といえるのか」と憤っていた。(山下美波)

11/26 中

原発運転60年の維持要求

原発の運転期間を「原則40年、最長60年」とする現行制度を撤廃する政府方針を巡り、全国の計約1200の市民団体などが7日、原子力規制委員会に現行制度の維持を申し入れた。共同声明で「老朽原発を動かすことは極めて大きな危険を伴う。交換できない部品も多く、点検できる範囲も限定的だ」と訴えている。これまで政府方針に反対する66003人分の署名も集まっております。近く経済産業省にも同様の申し入れをする。

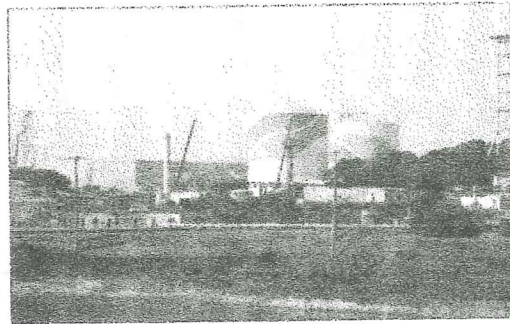
この日は都内で集会が開かれ、NPO法人原子力資料情報室の松久保事務局長は「国会での議論や、国民的な議論がないままの方針転換はおかしい」と指摘。オンライン参加した原発事故被害者団体連絡会の武藤類子さんは「原発事故の反省はどこにあったのか」と怒りの声を上げた。



目からウロコ“原発” 老朽原発は閉鎖するしかない！

『女性自身』編集部
運転期間「上限撤廃」で
高まる老朽原発の
“放射能漏れ”リスクを
専門家が警鐘

2022/11/04 (転載)



10月12日に運転期間の20年延長が申請された川内原発

福島第一原発事故を機に制定された原発運転期間を原則40年・最長60年とするルール。そのわずか11年後の今、規制の撤廃が行われようとしている。

「再生可能エネルギーと原子力はGX（グリーン・トランスフォーメーション）を進めるうえで不可欠だ」

今年8月、GX実行会議で、電力不足への対応や脱炭素社会の実現に向けて原発の必要性をこう力説した岸田文雄首相（65）。

会議で岸田首相は、次世代革新炉の開発・建設の推進に加え、現在「原則40年・最長60年」とされている原発の“運転期間の延長”を検討することを指示した。それを受け経済産業省は、10月5日、60年を超えて原発の運転を可能にする法整備を行うと表明。原発の稼働期限を事実上“撤廃”すると

した。この方針には、政府から独立し、原発を規制する立場にある原子力規制委員会の山中伸介委員長までもが、容認する姿勢を見せている。

■年数を経るとともに原子炉は劣化する

「そもそも、『原則40年・最長60年』というルールは、福島第一原発事故のあと、同じような事故を繰り返さないために、安全規制の一環として原子炉等規制法を改正して定められたものです」

そう解説するのは、原子力規制を監視する市民の会代表の阪上武さん。

「ところが、規制する立場である規制委員会の山中委員長は、資源エネルギー庁が60年を超える原発の運転を可能にするよう要求したのに対し『運転期間については、利用政策側である経産省の判断だ』として、原子炉等規制法から、この条文を削除する形で容認してしまっただけです。これは非常に問題です」

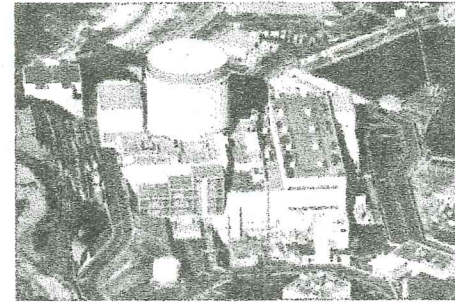
原発を推進する側の経済産業省がルールを定めるとなると、安全性よりも電力会社に都合のよいものになりかねない。

現在国内で建設済みの原発は33基。それらのすべてが、50年までに稼働40年を迎える。

条文が削除されることで、老朽化した原発が日本中で当たり前稼働するリスクは、いかほどか。

元三菱重工の技術者で、伊方原発3号機の建設機器班長を務めた森重晴彦さんは、こう指摘する。

「第一に挙げられるのは、中性子線が照射することによる原子炉の脆化です。原子炉は、炭素鋼という200mm厚の鉄板で作られているのですが、炭素鋼は中性子線に弱い。そのため長年、照射され続けることで金属が脆くなるのです」



国内で唯一40年を超えて稼働する美浜原発3号機

加えて、ホウ酸水による腐食のリスクもあるという。

「西日本の原発に多い加圧水型という原子炉は、中性子線を吸収しやすいホウ酸水で原子炉を冷やしています。しかし、炭素鋼はホウ酸水に弱いので炭素鋼の表面にステンレスを肉盛り溶接してコーティングしていますが、どうしても隙間からホウ酸水が染みこみ、経年腐食しやすくなるのです」

このほかにも、原子炉内を毛細血管のように張り巡らされている膨大な数の電子ケーブルなども経年脆化していくが、すべて取り替えることは困難だという。

「原子炉には蓋と胴部があり、いずれも劣化が進みます。三菱製の原子炉の蓋は劣化を理由にどの発電所も一度取り替えているのですが、原子炉胴部は即死レベルの放射線量なので取り替えが困難。現行法では40年ルールになっていますが、本来、原発の寿命と言われているのは30年くらい。炉を交換できないなら、この程度で廃炉にするのが合理的なのです」

実際に、製造から30年を超えたところから発電所内のトラブルが増えている、というデータもある。

「圧力容器の鉄板にわずかでも腐食が生じれば、そこから一気に亀裂が広がって冷却水が漏れ、原子炉が冷やせなくなってしまいます。そうすると炉心溶融が進み、最悪の場合は原子炉が爆発して、福島第一原発事故とは比べものにならないほど大きな事故になる可能性もあるのです」

これまでも、原発内に脆くなった部分がないかの検査は行われてきた。しかし「その検査にも限界と問題がある」と指摘するのは、「老朽原発40年廃炉・名古屋訴訟」を闘う弁護士の小島寛司さん。

「原子炉の中に、いくつか試験片を入れておいて、10年ごとくらいにそれを取り出し、圧力をかけるなどして金属の脆性を検査し、安全性を確認しています。しかし、そのデータが圧倒的に少ないのです。すでに40年を超えて運転を続けている美浜原発3号機の場合、稼働後約40年間で得られている破壊靱性試験のデータは、わずか12回分。それも、直近の検査では溶接金属部分のみチェックし、原子炉本体の母材については検査していないなど、極めて不十分なものでした」

本来、データを適切に提出させて審査すべき規制委員会も、それをせず稼働を許可しているという…

加えて、現存する原発にはそもそも“型が古い”という根本的な問題もある。

「11年に事故を起こした福島第一原発は、当時、稼働から間もなく40年を迎える老朽原発でした。」

そのため型が古く、原子炉を冷却できなくなったときに作動する非常用配電盤の設置場所が、ほかの電源とすべて同じフロアに設置される設計だった。そのため津波でいっせいに機能を失ってしまったのです」



原子力規制委員会の山中伸介委員長